

宇都宮市立峰小学校 第5学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役立つと思う」の問いに、98.8%の児童が肯定的回答をしている。また、「授業を集中して受けている」の問いに、96.3%の児童が肯定的回答をしている。このことから、児童は学習に対する意欲が高く、授業に前向きに取り組んでいることが分かる。

○「学校の宿題は、自分のためになっている」の問いに、96.3%の児童が肯定的回答をしている。また、県及び市の平均を10%以上、上回った設問は、「家の人と学習について話している」「家で、学校の授業の予習をしている」「家で、テストで間違えた問題について勉強をしている」「家で、学校や塾の決められた宿題の他に自分で考えた勉強をしている」など、多数あった。このことから、家庭学習に意欲的に取り組んでいる様子が分かる。

○「毎日、朝食を食べている」の問いに、100%の児童が「食べている」と回答した。このことから、朝食を食べる習慣が身に付いていると言える。

○「毎日の生活が充実していると感じている」の問いに、95.1%の児童が肯定的回答をしている。「学校のきまりを守っている」の問いに、97.6%の児童が肯定的回答をしている。このことから、児童は落ち着いて学校生活を送っている様子がうかがえる。今後も、児童が安心して学校生活を送ることができるよう、教育相談などで個別に悩みを聞き取る時間を大切にしていきたい。

○「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」の問いでは、肯定的回答が、県及び市の平均を上回った。本校の学校課題であるコミュニケーション能力の育成を目指して話し合い活動を意図的に設定している効果の現れであると考えられる。

●「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」「難しい問題に出会うと、よりやる気が出る」の問いでは、肯定的回答が、県及び市の平均を上回っているものの、否定的回答の割合がやや高い。頑張ることや挑戦することの大切さに気付かせていきたい。